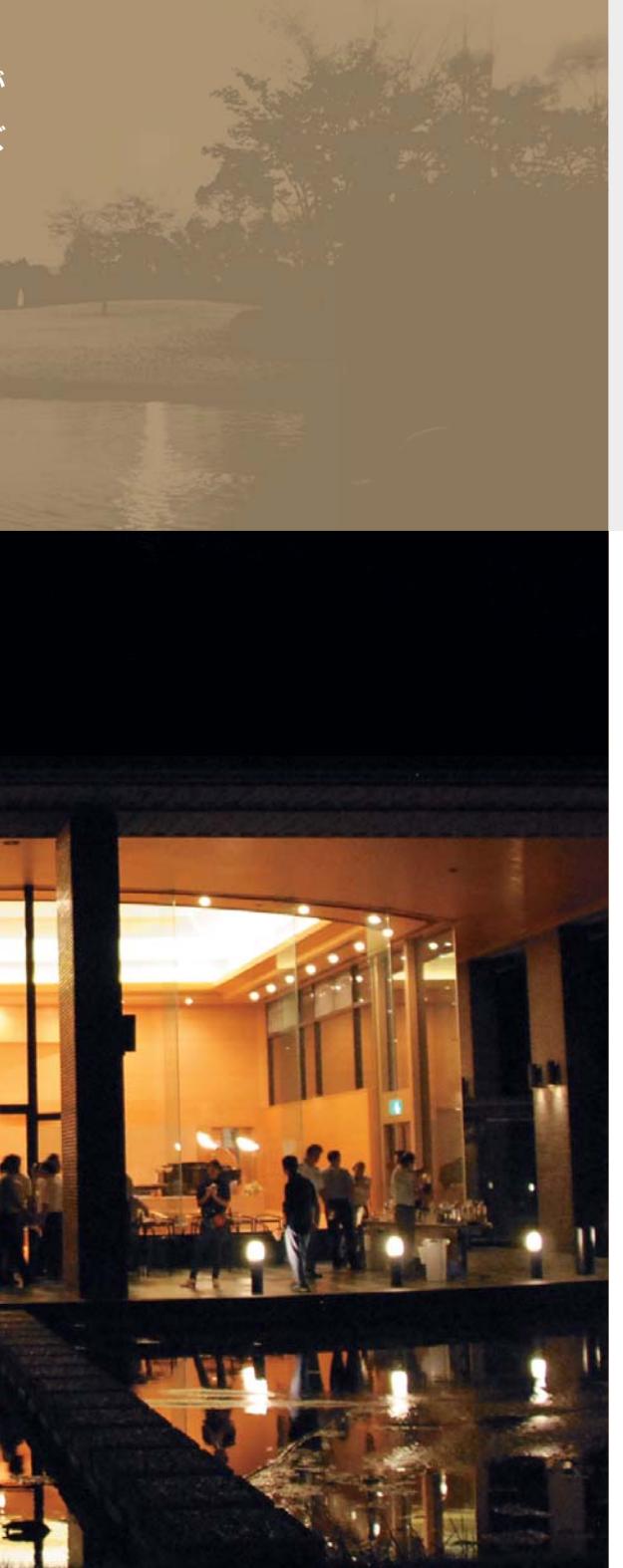


最先端の英知が集まり、つながり、そして広がる。

世界の最先端の英知を結集し、議論を深め、その活動による研究成果や知的資源を広く社会に発信・還元していくための、様々な交流活動を実施しています。さらに産・官・学のネットワークとつながり、研究成果が社会に活かされるような事業、社会的な要請やニーズに対応できる事業を積極的に推し進めています。



「社会とのつながり」をキーワードに、高等研の研究活動を基軸とする研究成果や知的資源などを積極的に社会に発信・還元し、それらが社会で活用されるような事業、そして社会的な要請やニーズに対して適切に対応できる事業を企画・運営する活動を展開しています。これらの活動を通して、産・官・公・民のネットワーク構築を図り、高等研がけいはんな学研都市における政策立案や、共同プロジェクトの推進などに貢献することで、けいはんな学研都市の中核機関として知的ハブ機能の役割を果たしています。

具体的には、けいはんな学研都市に立地あるいは関連する機関の方々とけいはんなにお住いの皆様を広く対象とする、芸術、文化、哲学を味わい、語り合うための「けいはんな哲学カフェ“ゲーテの会”」、次世代の若者の育成を企図した全人的人間形成のための「IIAS塾ジュニアセミナー」、けいはんな学研都市におけるオープンイノベーションを促進し、サイエンスティの核となる科学技術シーズの確立を目指す「けいはんな“エジソンの会”」など、さまざまな活動を通して社会とのコミュニケーションを深めています。

けいはんな哲学カフェ“ゲーテの会”

知的連携のための土壤醸成及び知的連携の促進を図るために、「満月の夜開く けいはんな哲学カフェ“ゲーテの会”」を2013年度に立ち上げ、原則として毎月の満月の夜に開催しています。

現在では、けいはんな学研都市に立地する研究機関や企業の方、近隣の住民の方など、けいはんな学研都市に係わる幅広い方々を対象に、クラシック・ミニ・コンサートと、様々なジャンルの第一人者による講演、さらには参加者との対話型セッションといった充実した内容で実施しています。これによりゲーテの会が、参加者の知的好奇心を高め、日常から離れ、未来に向けて考える時間を提供する貴重な場となっています。

2015年度は、「日本の未来を拓くよすが(拠)を求めて」をテーマに、日本の近代化を導いた偉人の思想、行動の光と影を追う企画を開催しました。2015年度には13回開催し、延べ535名の参加者を得ており、けいはんなの地に定着した活動となりました。

開催回	分野	講演タイトル	講演者
未来社会をいかに拓くか-未来社会を担う新しい人間像を探る-			
第21回 (2015.4.3)	—	菩薩の心	北河原 公敬 華厳宗大本山東大寺長老・東大寺総合文化センター総長
身辺に眼差しを向け、“文理融合”的世界に遊んだ人物			
第22回 (2015.5.12)	科学・技術	寺田寅彦の挫折と誇り-寺田物理学から学ぶもの-	池内 了 総合研究大学院大学名誉教授
第23回 (2015.6.4)	思想・文学	漱石と日本の近代化の矛盾	佐伯 啓思 京都大学名誉教授
第24回 (2015.7.2)	—	儒医山本亡羊とオジギソウ-本草博物学から文理融合を考える-	松田 清 京都大学名誉教授
世界の中の日本。科学・文化の諸相に彼我の風土の違いを発見した人物			
第25回 (2015.7.30)	科学・技術	湯川の戦後-科学と国民国家-	佐藤 文隆 京都大学名誉教授
第26回 (2015.9.1)	政治・経済	伊藤博文の遺産	瀧井 一博 国際日本文化研究センター教授
第27回 (2015.9.28)	思想・文学	福沢諭吉における「公」と「私」	猪木 武徳 青山学院大学大学院特任教授
第28回 (2015.10.27)	科学・技術	湯川の希望と苦悩:秀樹のこころ模様	佐藤 文隆 京都大学名誉教授
「西の文化」の彼方に「東の文化」を構想した人物			
第29回 (2015.11.27)	思想・文学	森鷗外と日本の個人主義	高橋 義人 京都大学名誉教授・平安女学院大学教授
第30回 (2015.12.24)	政治・経済	原敬の理想	伊藤 之雄 京都大学大学院法学院研究科教授
日本社会の古層から日本的ななるものを発掘した人物			
第31回 (2016.1.25)	政治・経済	北 一輝と昭和超国家主義	筒井 清忠 帝京大学文学部長・大学院文学研究科長
第32回 (2016.2.23)	思想・文学	宮沢賢治における〈鉄道〉	田島 正樹 元千葉大学文学部教授
第33回 (2016.3.23)	思想・文学	松平定信と和歌の思想	錦 仁 新潟大学名誉教授

IIAS塾ジュニアセミナー

現在社会にあって、科学技術至上主義や経済至上主義的風潮の下では、全人的な人間形成は困難となりつつあり、次代を拓くには、人間力の基礎をなす哲学(理性・感性)によって鍛えられた「独立自尊の志」を有する「全人」の養成が求められていると考えられます。

そこで、高等研では「ゲーテの会」の中から、選りすぐりの講演をテキストとして起こし、その講演をされた当該分野の第一人者とされる講師と直接語り合えるIIAS塾ジュニアセミナー——「独立自尊の志」養成プログラムを開催し、次世代を担う人材育成のためのセミナーを行うこととしました。2015年度は、第1回セミナーを2016年3月21日～23日に2泊3日で行いました。

開講式では長尾真所長から、「21世紀のこれから時代、科学技術先進国の考え方だけではなく、日本の歴史・文化的背景を踏まえ、日本人としてのこれからの人間の在り方、物の考え方を持つことが必要になります。」と、受講生に語りかけました。

思想文学、政治経済、科学技術の各分野について著名な講師による講演の後、参加者は論点整理を行い、若手研究者(大学院生)の先導のもとグループ討論を繰り返しました。講義による知識の獲得に焦点を当てるのではなく、その講義を題材として正解のない課題についてグループ討議を行うことで、多様な考え方をする他者の意見を受け入れ、自分の考えをまとめる経験を通じて、新たな視点や幅広い視野を獲得する意義を体得する非常に有意義な場となりました。今回の実績を今後の積極的な事業展開に繋ぎ、2016年度からのジュニアセミナーに反映していきます。

講師とメインテキスト主題

1)思想・文学分野

講 師:

佐伯 啓思 京都大学名誉教授
京都大学こころの未来研究センター特任教授

テーマ:

「夏目漱石に学ぶ
～西欧の模倣(外発的開化)を脱し、主体の確立(内発的開化)を～」

2)政治・経済分野

講 師:

猪木 武徳 青山学院大学大学院国際政治経済学研究科特任教授
大阪大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授

テーマ:

「福澤諭吉に学ぶ
～デモクラシーの基盤としての公智と公徳～」

3)科学・技術分野

講 師:

池内 了 総合研究大学院大学名誉教授

テーマ:

「寺田寅彦に学ぶ
～科学者の先見性と文理融合の世界～」



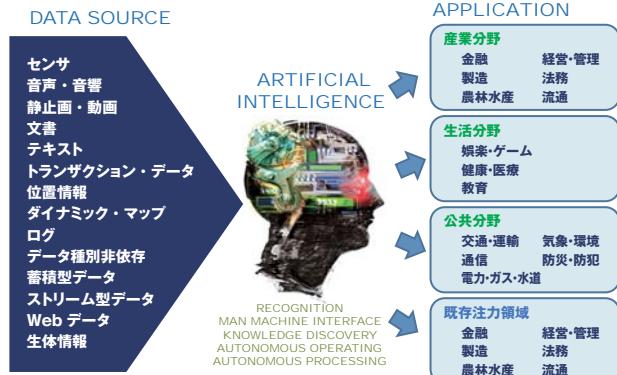
けいはんな“エジソンの会”

けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するため、高等研が知的ハブとしての役割を果たすとともに、立地機関の研究者や技術者のコミュニティを形成し、具体的な「オープンイノベーション」の成功事例の確立に寄与することを目指して、「エジソンの会」の立ち上げを企画しました。

2015年度は、エジソンの会の趣旨に賛同されたけいはんな学研都市に立地の研究機関、企業のキーマン、ライトマンが集まり、発足に向けた準備会合を開催し、2016年度からの正式発足に向けた準備を進めました。

その結果、取組みの核となる科学技術シーズの領域を人工知能～AIとし、その焦点を絞ることとしました。

拡大するAIの世界



KGI(けいはんなグリーンイノベーション)フォーラム

けいはんなグリーンイノベーションフォーラムは、平成27年5月15日、その「設立趣旨」に賛同するけいはんな学研都市の推進に関わる個人、立地企業の代表者33名によって、その「志」「思い」を持ち寄って設立されたフォーラムです。

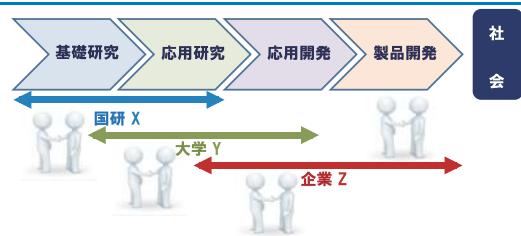
「設立趣旨」にうたわれている「志」「思い」は、「地下資源に依存し続けてきた文明に代わるもう一つの新たな文明を模索しよう」というもので、そこに掲げられた「実践課題」は、①何時でも何処でも誰でも科学に触れることのできる科学コミュニケーション等の取組を進める。②エネルギー自立、自律社会の形成を目指して各種の実証プロジェクト等を推進する。③人材育成・供給を旨とする大学研究コンソーシアムの形成に繋げ、知の蓄積、継承のシステムを構築する、というもの。

高等研は、これらに賛同し、事業推進をサポートしており、自ら掲げている理念でもある「人類の未来と幸福のために、何を研究すべきかを研究する」の具体化に注力しています。

当面の目標としては、AIの最新動向や知識を共有するとともに、AIのもたらす社会への影響を考え、その指針も確立していくこととし、立地機関を中心に、あらゆる人が出入り自由で、興味のあることや得意なこと、足らないことを交換しあうことで、オープンイノベーションの技術面・連携面での基盤を構築していくこととしました。

さらには、理化学研究所などの国立研究機関、大学、企業を結び、科学技術シーズと社会ニーズのあいだに双方向の流れをつくり、各々の力を活かして産業化をはかることを目指します。

研究・開発・社会実装の連携モデルの構築



強力な科学技術シーズを生み出す理研などの国研と直接のインタラクションをもちながらそれぞれの研究開発成果をつなぐことで、迅速かつ効果的に社会イノベーションを実現

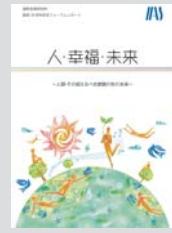
将来に向けては、けいはんな学研都市の核とできる盤石な科学技術の領域を確立するとともに、けいはんな学研都市に集結した研究機関や企業が連携することにより相乗効果を発揮することで、より高い価値を生み出し続けられるサイエンスシティづくりを目指します。核となる領域が育まれることにより、人、モノ、カネ、情報が自ずと集まるけいはんな学研都市の新たな持続可能モデルを確立したい考えです。

●様々なステークホルダーとの対話のための ブックレットを発刊

高等研の存在意義や研究の方向性をよりよく理解いただきため、活動成果をブックレットとして社会に公開しています。それにより様々なステークホルダーから意見を求め、それを取り入れることにより、今後の活動をより良いものにしていきます。



ISC第1期最終報告書
「自然・人類・社会、その超えるべき課題と未来」



創設30周年記念フォーラム実施報告書
「人・幸福・未来へ 人類・その超えるべき課題の先の未来」



「けいはんな未来」懇談会2015年度活動報告書
「けいはんな学研都市の30年後に向けて」